

調査審議事項1「新しい生活様式を見据えた文化芸術振興におけるICTの活用」について

- 方向性など
- ・SFMは核になるので、SFMの活用の中にICTも組み込んでいくようなことがある。
 - ・フィールドミュージアムの枠組みは、区内の色々なスポットが横につながり、ある時期集中的に発信していく構造だが、事業の実態と組み方の問題と、もう1つはウェブの活用。ここが、まだ十分に生かしきれていない部分があるので、ここをどう生かしていくかが、次のICTの活用の1つとしてある。
 - ・人々の間で文化芸術が日常的になるために、ICTによってSFMを期間限定ではなく通年で文化芸術活動に接せられるようにできないか。そこには当然このプラットフォームやサイトをいかに作っていくことも必要になる。
 - ・外国人は、日本人と違う視点で興味を示すことが多く、路地裏のお店等、日本人があまり行かないようなところも探して発信する。ICTで、こういう外国人の発信したものを逆に利用するのも1つの手ではないか。
 - ・やはりコンテンツが重要なので、コンテンツをどう作り上げていくか、あるものをどう活用するか。
 - ・ICTの活用は、行政が関わるのは非常に難しい部分がある。今できることは、イベントなり色々なものと、集客をICTによってつなげることに於いて、新宿区がサポートすることになる。
 - ・新宿観光振興協会のサイトは多言語対応なので、新宿の文化にアクセスするゲートウェイになるように区として関わっていく。
 - ・他に資源を振り分けなければならないことが多いだろうし、政府がやらないほうがうまくいく部分もあるかもしれない。その中で、少なくとも基礎自治体はインフラづくりと規制緩和はやらなくては行けない。
 - ・インフラは施設と思われるかもしれないが、SFMみたいなプラットフォーム、ハードではないソフトのインフラもあっていい。
 - ・ICTは非常に技術の進歩が早く、どこまで行くか分からない部分があり、後追いつめるのは非常に難しい。
 - ・何が出来るか。プラットフォームやサイトの充実、集客や利用の促進というものについて、大きな役割を担えるかなというのがある。
 - ・今、最初に音楽や美術などをみるのは、自分の家で、部屋で、スマホで。その後実際に現地に見に行き、リアルに触れる。こういうプロセスが日常的になっている中で、最初に知らず知らずのうちに慣れていくという意味で非常にお金も手間暇もかかるが、技術もどんどん進展しているのだから、そこをうまくそれぞれに使う。その際に支障になるところをサポートする方法がよい。

調査審議事項2「（新宿区全体への展開を見据えた）新宿駅周辺地域を中心とする地域の文化芸術活動主体の連携の促進」について

- ・公共空間をいかに文化で生かしていくかというテーマを軸にして、SFMと西口を中心として公共空間を生かす。それを区内全域でも展開できるような事業施策が持てると、西口開発を軸にしていろいろな広がりが出てくる。
- ・来れば文化芸術に触れられるという親しみのような部分で、まちづくりにうまく文化芸術が生かされていければよい。
- ・文化芸術の生きていく上での余白、大いなる無駄というところなどに人に対する優しさや余裕であったりということが文化芸術の最たる部分で、私達の重要な部分になったりするので、そういうことを感じられるようなことを、文化芸術がまちづくりに果たしていければよい。
- ・公共空間の活用は、中長期的な大きな都市計画の中に、文化芸術の在り方を組み込んでいく考え方でいけばいい。
- ・色々な規制はある中で、色々な文化芸術を身近に見てもらえるようにするというような視点で、公共空間が生かせるような都市づくりに区として助言をしていければよい。
- ・来ていただく方、また区民にとって新宿区は決して分かりやすいまちではない。訪れる人たちにとってフレンドリーな観光案内所が、民の力も借りながら、点在していくようになればよい。
- ・新宿駅周辺の文化地域みたいなものは、新宿に来る人がつくり出す文化である。新宿駅周辺以外でも、早稲田、神楽坂とかそれぞれに文化的なものがある。こうした新宿に住む人たちの文化も考えていきたい。
- ・区内各地にある特に文学者や芸術家の住んでいた所は、漱石山房記念館のような新しいものを作る拠り所になるので、発掘してもいい。こういう場を保存して、皆が共有しているというのも全国的にも非常に珍しく、新宿区が誇れるところだと思うので、もう少し増やせないか。
- ・SFMは、ここにこういうものがある、あそこにもああいうものがあるという発見をする場でもある。
- ・新宿駅周辺再開発は2040年完成なら時間があるようではないかも。基本的な考え方に文化芸術を生かすことは大手鉄道会社が中心にやると思うので、文化や芸術を生かすことがすごくメリットがあることを理解してもらおう。
- ・そういう考え方に非常に親和性が出てきているのではないか。従来型の開発ではない在り方を受け入れていただく素地もある気がするのだから、そちらは急いだほうがいいかもしれない。

その他のご意見等について

- 【調査審議の進め方等について】
- ・もう少し日常の中に文化芸術がどう息づいていくか、接点を持てるかということ議論すべきではないか。
 - ・文化でもよいものなら公的支援が示されていたが、そういう時代は終りつつあり、自治体や国なりもプレイヤーの一部であることがはっきりと見えてきた。これは、日本だけではなく、他の国も同じと思う。
 - ・ICTと公共空間とも従来型の文化振興セクションとしては、非常にやりにくい部分が多い。
 - ・ICTがどちらかという後追いで、公共空間については少し積極的に出ていくという力配分に差をつけながら議論していくのが、限られた時間内でより効果的な結論を導けるのではないか。
 - ・具体的に、SFMの再定義みたいなことをやり、付随するICT、公共空間という考え方をしていくと、区がやれることが明確になる。
 - ・公共空間に文化芸術を生かすところを中心に置きつつ、ICTの行方も横にらみしながら両方やっていくのが現実的と思う。
- 【文化の意義】
- ・文化とは何か。1つは「空間的な広がり」。新宿があり、それをさらに広げれば、新宿から東京全体という世界につながる空間的な広がりがある。
 - ・もう1つは「時間、過去とのつながり、歴史的な文学、歴史遺産」。新宿は、様々な文学、歴史遺産、林芙美子等の作品も残る。そういう時間的な歴史と空間的な広がり、その十字路に立つのが文化だと思う。
 - ・その文化に立って、両方を見渡ししながら両方取り入れていくことが文化の役割だと思う
- 【SFMの活用】
- ・SFMを使って演劇や音楽会等を集中的にやり、そこから発信、パフォーマンスを広げていく考えもある。
 - ・SFMは以前は7月～11月に広げたが、まちの核となるには2カ月に絞る方がいい。その中でその年のテーマを決めるなりしながら、新宿区の文化芸術の1つの象徴的な存在になるようにしていければよい。
- 【新宿文化センター】
- ・新宿文化センターは休館するが、1回お客さんが離れたら取り返すのは大変難しいので、文化センターのパイプオルガンのアピール動画などを配信する。海外の人も見られるようになれば、歌舞伎町に泊まった人が気軽に見に行こうかみたいになるのではないか。
 - ・芸術はその場で味わうのが最高だと思う。とりあえず少し見たい、時間が合わない、行きたくてもいけない等の方の為に、PR動画を再開館を見据えて準備する。



SFMオープニングイベント：新宿大幸利



SFMオープニングイベント：サクセス演奏



SFMオープニングイベント：蓄音機パフォーマンス



FUN MORE TIME SHINJUKU

注) SFM:新宿フィールドミュージアム